



土木界で働く女性の より一層の活躍をめざして

国土交通省北海道開発局
札幌開発建設部技術企画課

はじめに

国土交通省北海道開発局札幌開発建設部では、技術企画課が中心となり、これまでに多くの現地見学会を企画・実施してきました。

今回は、女性技術者を対象とした現地見学会を開催しましたのでご紹介します。

1 開催のいきさつ

読者の皆様は、「ドボジョ」という言葉をどこかで聞きつけたことがあるかと思います。

土木系の仕事や学問に携わる女性技術者は「ドボジョ」と呼ばれ、「ドボジョ！」という漫画や「土木女子！」という写真集が発行されるなど、一気に注目を浴びる存在となったことは、記憶に新しいと思います。

では、全国の「ドボジョ」達で組織された「土木技術者女性の会」（以下、「女性の会」と呼びます）は、ご存じでしょうか？

「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できる会を」（HPより引用）という話から、1983年1月（！）に発足した会です。

今回、この「女性の会」の道内会員の方から、「今年度、「女性の会」の総会が北海道で開催されることとなり、それに合わせた見学会の要望が会員から挙がっていますが、対応は可能でしょうか」という問い合わせが当建設部に寄せられました。



①新千歳空港ILS設置盛土造成工事に具体的な質問が

札幌開発建設部にも、女性技術職員が在籍していることもあり、一緒に現地見学会を開催することで、職員が他の現場を知ることが出来るだけでなく、全国で活躍する「女性の会」会員との交流が図られ、いろいろと得られるものが大きいのでは、という考えから、二つ返事で「女性の会」とコラボすることとなりました。

2 合同現地見学会 (2015年6月26日開催)

全国組織である「女性の会」の会員は、現在195名(2014年4月現在、HPより引用)いるそうです。当日の合同現地見学会は、遠く九州から参加された方を含む「女性の会」会員38名(うち、北海道支部13名)と、札幌開発建設部女性技術職員13名の総勢51名が参加する、大規模なものとなりました。

今回の見学会では、より興味と共感がもてるように、見学箇所の選定も当建設部の女性技術職員が担当する現場を案内できるように、配慮しました。集合場所の新千歳空港から「女性の会」の総会が開かれる定山溪温泉までの行程上に、女性技術職員が担当する現場があったという幸運にも恵まれ、当日は以下の現地を案内しました(カッコ内は、担当の女性技術職員です)。

- ① 新千歳空港ILS^{※1}設置盛土造成工事
(千歳空港建設事業 廣瀬第2工務係長)



②国道453号被災復旧箇所(千歳市)をつぶさに見学

- ② 国道453号被災復旧箇所
(千歳道路事務所 堀越開発専門職)
- ③ 豊平川直轄砂防事業 南の沢川
(札幌河川事務所 巖倉所長、唐澤砂防計画係長)
- ④ 定山溪ダム：定山溪ダム管理支所

見学会当日は、天候に恵まれたこともあり、移動のバスの車内は非常に賑やかで、さながら「同窓会」の雰囲気そのままに、会話が途絶えることは全くありませんでした。「女性の会」の参加者は、道内外の官公庁職員のほか、大手ゼネコン、コンサル、教育機関、研究職など、その職種も年齢も(?)様々で、まさに「女性の会」の裾野の広さを感じさせるものでした。

そのような「同窓会」の雰囲気も現地に着くと一転、ムクムクと技術者魂が目覚めたのか、「盛土量はどのくらい?」(①の現場)、「橋脚はどのくらい沈下したの?」(②の現場)、「地域との合意形成はどうやって図った?」(③の現場)、「クラックチョーク^{※2}発見!」(④の一般開放されたダム内部)、バスの車内以上の盛り上がりでした。

さらに定山溪ダムでは、今注目を集めている「ダムカード」が最後に配布されるというサプライズ(!)もあり、盛況のうちに見学会は終了しました。



③南の沢川(札幌市)で豊平川直轄砂防事業の説明を聞く

※1 ILS(instrument landing system)
計器着陸装置。

※2 クラックチョーク
ダム内部のコンクリート表面にある微細なクラック箇所をマーキングしたチョーク跡のこと。

3 アンケート調査より

初めての合同現地見学会であり、いろいろのご意見やご要望をいただきましたが、評判はおおむね上々だったようです。当日の参加者アンケートの結果の一部をご紹介します。

(札幌開発建設部女性技術職員から)

- ・ 女性の会は40代、50代の方がたくさん居られて驚きました。開発局はその年代の女性技術職員が少なく、とても励みになりました。
- ・ コンサル、ゼネコンの女性技術者の方と接する機会がないので、良い機会でした。
- ・ 災害復旧現場では自然の恐ろしさを実感しました。「女性の会」に対しても、有意義だったのではないのでしょうか。

(土木技術者女性の会会員から)

- ・ 地域の方々との話し合いは、土木の大切な側面だと感じました。
- ・ 各現場に女性技術者が活躍しているのを見てうれしくなりました。

- ・ 災害復旧や砂防事業は生活を守るための大切な事業ですが、一般の方に十分な理解を得られないのが残念です。

おわりに

この他、バスの中でも結婚や出産、育児に話が及ぶ場面があり、交流は大いに図られていました。

政府全体で「女性が輝く社会の実現」を目指し、全国で様々な取組が行われていますが、今回の現地見学会では、担当する土木女性技術者の姿を通して、知見を広めたり、自身の励みとしたり、土木の重要性を再認識したりと、それぞれのモチベーションの向上につながったものと考えています。

札幌開発建設部では、これまで取り組んできた事業や現在実施している事業について、今後も幅広く発信していく予定です。

最後に、今回の合同現地見学会の運営にあたり、ご協力いただいた関係各位に対し、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。



④定山溪ダムにて充実した見学工程終了